

# 茨城県農業総合センター研究報告の原稿作成要領

## 1 通則

原稿の作成は、本要領に定めるもののほか、科学技術情報流通技術基準 (SIST) に準拠する。

## 2 使用言語

和文または英文とする。

## 3 原稿

- (1) 原稿用紙は、A4版用紙、縦長とする。
- (2) 和文・英文（標題，ローマ字著者名や要約等）原稿とも，原則としてワードを用いて記述する。
- (3) 和文原稿は，横書き1段組，1行47字とし，47字×47行×1段組を1ページとして作成する。  
要旨は1段（47字×10行程度）とする。
- (4) 図，表（写真）の挿入位置やサイズは，本文とのバランスを考慮して著者が決定し，編集を行う。
- (5) 余白は，上端30mm，下端25mm，右端22mm，左端22mmとする。

## 4 書体

### 4.1 和文原稿

標題：MSゴシック 14.0ポイント  
著者名：MS明朝（標準） 12.0ポイント強調  
所属：MS明朝（標準） 10.5ポイント  
和文要約：MS明朝（標準） 10.0ポイント  
キーワード：MS明朝（標準） 10.0ポイント  
見出し：MSゴシック 11.0ポイント  
本文：MS明朝（標準） 10.0ポイント

### 4.2 英文原稿

標題：Times New Roman 14.0ポイント強調  
ローマ字著者名：Times New Roman 12.0ポイント強調  
キーワード：Times New Roman 10.0ポイント強調  
Summary：Times New Roman 10.0ポイント

### 4.3 数字

数字は，アラビア数字を用い，数字及びローマ字は半角扱いとしてTimes New Roman（半角）で入力する。

## 5 原稿の構成等

### 5.1 原稿の種類による構成

原稿の種類による構成は，次のとおりとする。

#### (1) 報文（原著論文）

和文表題，和文著者名，所属，和文要約，和文キーワード，はじめに，（材料および）方法，結果，考察，まとめ，引用文献とする。また，原則として後に，英文表題，ローマ字著者名，英文要約（Summary），英文キーワードを付ける。

#### (2) ノート

技術の普及導入事例などの紹介を行う。（専技の技術体系化チームなど）

和文表題，和文著者名，所属，和文要約，和文キーワード，はじめに，（材料および）方法，結果，考察，まとめ，引用文献とする。英文表題，ローマ字著者名を付しても良い。

## 5. 2 構成要素の記載要領

### 5. 2. 1 表題

- (1) 副題のあるときは、行を改めて書く。副題番号（第1報など）は、和文では主題と同じ行に、英文では副題の初めに書く。
- (2) 英文表題は、冠詞、前置詞、副詞、接続詞以外の単語は第1文字を大文字とする。
- (3) 表題は、論文の内容を的確・簡潔に表したものとする。「～について」、「～に関する考察」という表現は避ける。

### 5. 2. 2 著者名

- (1) 共著のときは、著者名の間に中点を付ける。
- (2) 著者名の英文は、名を先に、姓を後に記載する。名は最初の1文字のみを大文字とし、姓はすべて大文字とする（スモールキャピタルとしない）。共著のときは、著者名の間にコンマを付け、最後の著者の前には and を用いる。
- (3) 筆頭著者の所属以外の著者名は、その右肩に「1）、2）」の記号を付け、それぞれの所属機関名をそのページの最下段に脚注として記載する。

### 5. 2. 3 所属

- (1) 筆頭著者の所属を括弧書き（（ ））で記載する。その際、「茨城県」も記載する。
- (2) 英文の筆頭著者名の右肩に「1」の記号を付け、そのページの最下段に脚注として所属住所を英文で記載する。

### 5. 2. 4 序論

はじめに、緒言、はしがき、まえがき、序、序論、緒論等は、「はじめに」とする。

### 5. 2. 5 本文

- (1) 見出し（はじめに、（材料および）方法等）は、上1行あけ、全角の数字により1.、2.、3.とし、行の左端にそろえる。
- (2) 小見出しは、行をあけずに、全角の数字により1. 1、2. 1とし、行の左端にそろえる。

### 5. 2. 6 英文要約

300～1000語以内を基本とする。

### 5. 2. 7 キーワード

キーワードは、3～5つを標準とする。  
英文キーワードの頭文字は原則小文字とする。

## 6 用字、用語、記述符号

### 6. 1 用法

JIS Z 8301「規格票の様式」に準拠する。

（科学技術情報流通技術基準 SIST 08“学术论文の構成とその要素”を参照。）

### 6. 2 句読点法

- (1) 和文原稿（原稿中の英文字を含む）において、句点は“。”、読点は“，”とし、それぞれ全角とする。
- (2) 英文原稿において、句点は“:”、読点は“;”とし、それぞれ半角とする。

### 6. 3 見出しの番号付け

- (1) 本文中の見出しは、ポイントシステムによって記載し、章、節、項で止める。

例 1. 1. 1

- (2) 項以下の細項は、両括弧を用いて細分する。
- (3) 箇条書きの番号付けは、ローマ字（a）、（b）、（c）を用いて表示する。丸数字は用いない。

### 6. 4 図、表（写真）

- (1) 図、表（写真は図に含む。）には、本文に出てくる順に、それぞれ一連番号を図1、表1

と付ける。

- (2) 図，表には，番号に続けて説明を付ける。その際，図の番号及び説明は図の下に，表の番号及び説明は表の上に付ける。
- (3) 和文はMS明朝（標準），英文は Times New Roman（いずれも強調なし）を用い，印刷レイアウトを考慮して文字サイズを設定する。
- (4) 図，表の外枠は表示しない。
- (5) グラフの凡例は原則グラフ内に記載し，外枠は表示しない。
- (6) 表はセル表示をせず，原則横線のみとし，最外線は太線とする。
- (7) 図表は白黒で印刷されることを考慮して，見やすいように作成する。

## 6. 5 年次

原則として，西暦を用いる。和暦を用いる必要があるときは，続けて括弧内に西暦年号を付記する。

## 7 脚注

脚注は，「\*」を用い，欄外に入れる。

## 8 引用文献

### 8. 1 本文中での引用

以下の例に従って「著者名(年号)」または「(著者名，年号)」とする。共著者については2名の場合は全員を，3名以上の場合は第1著者名に「ら」あるいは” et al.”を付して他を省略する。

同一著者かつ同一年のものについては，年号のあとにアルファベットを付して，” 2013a, 2013b ”のように区別する。

鈴木（2000）（Martin et al., 1992）（いも類振興会, 2010）（河又ら, 1997a, ; 藍原・霞, 2001）

### 8. 2 引用文献一覧

以下の例に従って記述し，著者名のアルファベット順，暦年順に配列する。学会報や国研，公設試等の研究報告名については，正式名称記載を基本とするが，各研究部門において通常使用している略称の記載も可とする。単行本は引用した頁を示す。講演要旨を引用する場合は最後に（講要）または（Abstr.）と記す。

浜 弘司（2000）殺虫剤抵抗性. アブラムシの生物学（石川 統編）. 東京大学出版会，東京，pp. 74-94.

日本植物防疫協会編（1997）植物防疫講座・第3版・病害編. 日本植物防疫協会，東京，pp. 111-127.

飯田幸彦・小川 奎・渡辺 健・千葉恒夫・山崎郁子・三田村 剛・小西猛朗（1997）麦類の土壤伝染性ウイルス病に対する大麦品種の抵抗性に関する研究. 茨城県農業総合センター農業研究所研究報告 4 : 115-174.

渡辺 健・下長根 鴻・戸嶋郁子・米山伸吾（1991）カボチャフザリウム立枯病菌の分離培地の検討. 日本植物病理学会報 57 : 405（講要）.

松本みゆき・今井史歩・渡辺 健（2004）茨城県におけるチオフアネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の出現. 関東東山病害虫研究会報 51 : 11-14.

Watanabe K and M Tojo (2006) Stem and root rot of scarlet runner bean (*Phaseolus coccineus*) caused by

*Pythium myriotylum*, Journal of General Plant Pathology 72:126–128.

Oseto, C. Y. (2000) Physical control of insects. In: Insect Pest Management (J. E. Rechcigl and N. A. Rechcigl eds.). Lewis Publishers, New York, pp. 25-100.

気象庁 (2015) URL : <http://www.jma.go.jp/jma/index.html> (2015年3月アクセス)

## 9 動植物名等

動植物名はカタカナとする。

植物病名は「日本植物病名目録」(日本植物病理学会編)に準拠する。有害動物・昆虫名は「農林有害動物・昆虫名鑑」(日本応用動物昆虫学会)に準拠する。

## 10 品種名

品種名の表記は, ‘○○○’とする。

例: ‘コシヒカリ’, ‘Koshihikari’

## 11 学名

専門用語, 学名等については各研究部門における記載法(例: 育種学用語集, 日本育種学会編)に準拠する。

## 12 計量単位

計量単位はメートル法とし, 国際単位系(SI units)に従うことが望ましい。なお, 記号の後には略記を表すピリオドを付けない。

単位の例

長さ m, km, dm, cm, mm,  $\mu\text{m}$ , nm

面積  $\text{m}^2$ ,  $\text{km}^2$ ,  $\text{dm}^2$ ,  $\text{cm}^2$ ,  $\text{mm}^2$ , ha, a

体積  $\text{m}^3$ ,  $\text{cm}^3$ ,  $\text{mm}^3$ , L (lは不可), mL,  $\mu\text{L}$ , nL, pL

時間 s, min, h, day(s), week(s), month(s), year(s)

回転・振動数 Hz ; rpm

質量 kg, t, g, mg,  $\mu\text{g}$ , ng, pg

圧力 Pa,  $\text{N}\cdot\text{m}^{-2}$ , bar, mbar, atm (気圧), mmHg (血圧の場合のみ), Torr (生体内の圧力のみ), pF

温度 K,  $^{\circ}\text{C}$

熱量 J, (k)cal (栄養・代謝に関わる場合のみ)

電気関係 A, mA ; V, mV ;  $\Omega$  (オーム, 抵抗) ; W, kW, mW

光関係 cd ;  $\mu\text{mol}\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{s}^{-1}$  ; lx, klx ; lm

物質, 濃度 mol, mmol ;  $\text{mol}\cdot\text{L}^{-1}=\text{M}$ , mM,  $\mu\text{M}$  ; N (規定)

放射能 Bq, Ci, mCi ; Gy, rad, krad ; R, kR, dpm

その他  $\times\text{g}$ , pH, cpm, %, ppm, ppb \*\*本/株, \*\*個/鉢

屈折計による糖度は文章中では  $^{**\circ}$  のようにし, 図表中では  $^{\circ}$  Brix と記載する

計量単位はメートル法とし, 国際単位規格(SI units)に従うことが望ましい。なお, 記号の後には略号を表すピリオドをつけない。

## 13 注意事項

企業名

企業名は伏せ, アルファベットの頭文字とする。例: T社製

ただし、共同研究などで企業名を出す必要がある場合はこの限りではない。企業名を表記する場合は、相手方の了承を得ること。また、株式会社は(株)、有限会社は(有)で表記し、(株)等が社名の前に付くか、後ろに付くか確認すること。

#### 商品名

商品名は一般的な名称を使用すること。

ただし、特定の商品であることを明記しなければならないときはこの限りではない。

また、商品の効果の表現については、特定の商品の宣伝にならないよう留意する。（「他社にも同等の効果が得られる商品がある。」、「効果が低いことを宣伝された」等のクレームに対応できるよう）。

#### 農薬等の薬品名

薬品名は成分名（種類名）とする。必要に応じて（ ）で分量や商品名を記載する。

例：クロチアニジン粒剤（分量0.5%，商品名：ダントツ粒剤）

#### (附則)

この要領は、平成30年7月6日から実施する。

この要領は、令和元年6月3日から一部改正する。